NIE実践報告

1．タイトル：新聞の報道写真を用いたデッサンワーク ―B.エドワーズ著『脳の右側で描け』の理論を

2．学校名

大阪府立桃谷高等学校多部制単位制Ⅰ部Ⅱ部（定時制の課程）

3．実践者名（代表者名）

菊永真美

4．学年

単位制のため学年なし

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

美術

6．単元（本時の学習課題）名

新聞の報道写真を用いたデッサンワーク　―B.エドワーズ著『脳の右側で描け』の理論をもとに―

7．目標（狙い）

・報道写真を使って、画面の構成および描写力・デッサン力を育てる。
・B.エドワーズ著『脳の右側で描け』の技法を利用した方法で、スケッチに対する苦手意識を克服し、描くこ

8．評価の視点

・写真から対象のとらえ方や構図、空間の感じ、明暗の濃淡の段階的な流れを学び取れているか。
・さまざまな写真を選んでいろいろなモチーフに積極的に取り組めているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

造形演習(1単位)　授業のはじめに15~　20分程度時間をとって行う。5回程度。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

授業のはじめに以下の工程でデッサンワークを行う（15~　20分程度）。総回数5回程度行った。
①新聞の報道写真の中から描きたいモチーフを選び、切り抜いてワークシートに貼る。
②ワークシートのフォーマット全体に鉛筆で薄く地塗りをした後、グリッド線を引く。
③写真の上にピクチャープレインを重ねて、水性ペンで写真のモチーフのアウトライン(輪郭)をピクチャープレイン上になぞって描いた後、ピクチャープレインを写真上から取り外し、なぞったアウトラインをよく見てフォーマットに鉛筆で描き写す。(グリッド線を頼りに、形がずれないように)
④写真の明暗を参考に、ハイライトを消しゴムで消して明るくし、また黒い(暗い)部分を更に黒く塗る。
⑤トーンの境界線部分がぼやけないように塗り分けた後、細部を満足できるまで描く。
⑥ピクチャープレインに描いた水性ペンによる線は、布等で拭き取ってきれいにして返しましょう。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

生徒たちは、絵を描きながら記事にも興味を示し、感想や意見を雑談しながら作業をする雰囲気ができていた。また、生徒が自分で興味関心のあるモチーフを選べること、新聞の印刷の濃淡と写真の構図を参考にできること等の理由に加えて、B．エドワーズ氏のデッサンワークの手順に沿って描き進めることにより、生徒が

12．成果と課題

本題材を進めるにつれ、自宅から気に入った新聞記事を切り抜いて持ってくる生徒も現れるなど、写真に愛着を持ち、新聞は楽しいという意識の変化が見られたように思う。
さらに、本課題を授業時間の始めに繰り返し行うことにより、次第に気軽にデッサンが描けるようになり、絵に対する苦手意識を少しずつ克服し、自分の表現に自信を持ち始めた生徒もいた。
今後も、視覚的なアプローチからでも習慣的に新聞に触れて社会の動きや周囲の様々なことに興味関心を持ち続ける姿勢を持続させたい。それこそが、芸術科の教科目標である「豊かな人間性の育成」「感じ取る心」